音楽と私

我孫子シニアアンサンブル　牧野直彦

１．ヴァイオリンとの出会い

会社勤めの時期は、丁度日本経済の高度成長の真っ只中でもあり、ひたすら仕事一途で家族のことなど顧みず、ましてや音楽とは無縁の生活でした。

そんな中、48歳の誕生日を前にして、55歳定年が数年後に迫っていることでもあり、定年後に自宅近辺での活動をどうすべきか考え、今の内から何か「できること」を身に付けておきたいと思い始めました。

定年後は「働きアリから脱却し、キリギリスのように優雅に過ごそう」との思いから、ヴァイオリンを習いたいと家内に相談したところ、早速先生を探してくれました。その先生を尋ねて教えを乞いましたところ、入会を許可されました。毎週土曜日の個人レッスンは、練習不足のため、なかなか進みませんでしたが、それでも1年後の発表会では、それなりの曲を演奏することができました。先生とは気が合い、雑談をしながら楽しくレッスンを受けていましたが、約8年経った頃、先生が病のため他界され、それからはヴァイオリンの練習はパッタリと止めてしまいました。

２．岡村斉能氏との出会い

ヴァイオリンを止めて約10年経った頃（60歳代半ば）、仕事に少し暇ができそうなことから、ヴァイオリンを再開したいと思い始めました。一人で弾いても面白くないので、どこかの楽団に入団したいと思っていたその時、我孫子市の広報で楽器演奏の初心者募集の案内を見つけ、早速連絡をとったところ「一度、見学に来て下さい」と言っていただきました。これが、岡村様（現、全シ連理事長）との出会いでした。岡村様は、既に我孫子市、柏市、松戸市等でシニアアンサンブルを立ち上げられていましたが、更に「入門コース」として我孫子市に二つ目の楽団を立ち上げられたのでした。（この楽団が現在のシニアアンサンブル「あすなろ」です）

丁度旨いタイミングで入団させていただきました。当初は10人程度のこじんまりとした楽団でしたが、和気あいあいとした雰囲気と岡村様からヴァイオリンの奏法の手ほどきも受けられて、練習日が待ち遠しい程にのめりこんでいきました。休憩時間には、岡村様のシニアアンサンブルにかける情熱や夢を聞くことができました。

入門コースで2年経過した頃、我孫子シニアアンサンブルに入団してはとのお誘いを受け入団させていただきました。そこでは2か月ごとに出張演奏会があり、演奏曲が2か月ごとに一新されるため、入団後、約1年間は新曲の練習に苦労しました。

その一方、岡村様がシニアアンサンブル千葉県連を組織化され、加盟楽団の交歓会を千葉市のホテルで開催されることになり、県連の事務局長兼会計を仰せつかり、その1年後には全シ連の千葉大会があり、その実行委員を仰せつかりました。ここでの経験は、その後我孫子シニアアンサンブルの代表を引き受けた時に大いに役立ちました上、近隣の楽団の方々との面識もでき、いろいろ教えられることが多くありました。

岡村様が千葉県連で実行された「楽譜調達」手法は、今や全シ連にまで拡大され活用されていますが、シニアアンサンブルにかける将来像（夢）を一つ一つ実現される姿を近くで拝見してただただ感嘆しておりました。

３．代表就任

我孫子シニアアンサンブル創立10周年記念定期演奏会が終了した日の2次会の席で、岡村様から「これを機に退団するので次期代表を」との打診を受けました。岡村様に育てていただいた感謝の気持ちはありましたが、入団3年目の若輩者が、岡村様の後を引き継げるわけがないと固辞しました。しかし、岡村様の夢（シニアアンサンブルを更に全国に広げていきたい。まず茨城県に楽団を立ち上げたいとの想い）に思いを馳せると、岡村様の負担を少しでも軽くすることが、恩返しになるかとの思いで結局引き受けました。岡村様から直接、間接に教えていただいたノウハウを基本にして、団員全員が力を合わせ、知恵を出し合い、分担し合い実行するとの方針で楽団の運営を図ることとしました。幸い団員が積極的に役割を実行していただき楽しい楽団生活を満喫しています。